

# 各種手続き



CHUKYO UNIVERSITY

## I 渡航手続き・出発

パスポートについて／査証(ビザ)について／海外旅行保険／予防接種／持ち物・持ち物リスト

## II 留学と単位認定について

留学中(～帰国)の留意事項／単位認定の手順

## III 海外危機管理

安全な留学生活を送るために／「海外旅行保険」と「海外危機管理トータルサポートサービス」について

## I 渡航手続き・出発

| 留学種別           | 留学準備 | パスポート | 査証(ビザ)      | 海外旅行保険  | 予防接種        |
|----------------|------|-------|-------------|---|-------------|
| 交換留学           |      | ○     | ○<br>全員     | ○<br>■個別協定：本学指定の保険<br>(+留学先指定の保険)<br>■ISEP：ISEP保険+本学指定の保険 | △<br>渡航先による |
| 全学 Semester 留学 |      | ○     | △<br>渡航先による | ○<br>本学指定の保険  | △<br>渡航先による |
| 海外短期研修         |      | ○     | △<br>渡航先による | ○<br>本学指定の保険  | ×           |

○ 必要 △ 渡航先・渡航期間等条件によっては必要 × 基本的に必要なし

## パスポートについて

留学に向けて準備を進めるにあたり、最も大切な書類がパスポートです。すでに持っている人も、その有効期限を必ず確認しましょう。留学期間中有効であることはもちろん、国によっては、入国の時点で滞在期間に加えて一定期間以上の有効期限が必要な場合もあります。

初めてパスポート(旅券)を取得する人は、各都道府県の旅券センターでパスポートの申請を行ないます。パスポートの申請には、原則として申請場所の都道府県に住民登録をしていることが条件ですが、他の都道府県に住民登録している人でも、一定の条件を満たせば大学の所在する愛知県で申請できる場合があります。パスポートの申請に関しては、10年用と5年用を選ぶことができます。ただし、20歳未満の方は5年用のみとなります。申請は余裕をもって行なうようにしてください。

詳細については必ず自分で各都道府県の旅券センターのホームページを確認してください。



### パスポート申請に関するホームページ(東海三県)

- 愛知県 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenminseikatsu/0000000757.html>
- 三重県 <http://www.pref.mie.lg.jp/PASSPORT/16492018035.htm>
- 岐阜県 <http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/passport/passport/>



## 査証(ビザ)について

パスポートを取得し、留学先大学から受入許可証を受け取った後は、渡航先や渡航期間によって査証(ビザ)の取得が必要となります。査証(ビザ)の取得には日本にある各国の大使館・領事館に直接申請に行く必要がある場合があります。詳しくは、渡航国の移民局、又は大使館のウェブページを参照してください。

例えば、アメリカの大学に長期留学(90日以上)を希望する日本人は、必ずアメリカ連邦政府から留学の査証(ビザ)を取得する必要があります。必要となる提出書類を事前に確認し査証(ビザ)の申請に行く訳ですが、最も近い場所は大阪にあるアメリカ領事館です。アメリカ領事館に出向いて申請を行うと同時に、領事館担当官との英語の面接を受けなくてはなりません。

現在、アメリカと日本では査証免除協定が締結されていますので、90日間以内の短期間であれば、留学査証がなくてもアメリカに入ることができます。ただし、2009年1月12日以降、米国へ短期(最長90日)の観光・商用目的で査証(ビザ)を取得せずに航空機・船舶にて入国(アメリカ内を経由して第3国へ渡航する方を含む)を予定する日本人は、「ESTA(電子渡航認証システム)」への登録(有料:US\$14)が必要となりました。登録はアメリカ国土安全保障省のウェブサイト(「主な留学先と査証(ビザ)の表」参照)から自分で行なうことができます。早めに手続きをすませておいてください。

## 海外旅行保険

留学先では何が起るかわかりません。ISEPまた留学先大学などによっては、受入の条件として当該組織が指定する海外旅行保険への加入を義務づけています。これに入ることなく留学をすることは認められません。一方、これらは必要最低限の保険のため保険代金は安くすみますが、補償内容も十分ではありません。海外でお腹が痛くなり、日本の感覚で救急車を呼んだら、数百万円が後日請求された等という話をみなさんも聞いたことがあるかと思います。そのため、本学が主催する海外プログラム(交換留学、全学セメスター留学、海外短期研修)参加者には本学指定の海外旅行保険にも入ることを義務付けています。

海外旅行保険については、「Ⅲ 海外危機管理」の欄に詳細を取りあげていますので、併せて理解しておくようにしてください。なお、過去の実績では10カ月程度の交換留学の場合、保険料総額(留学先組織指定額と本学指定保険)は個別協定校で約10万円、ISEPは約14万円程度となります。予め承知しておいてください。

## 予防接種

長期留学の場合、留学先大学や国や州によって、予防接種を受けたことを証明する書類の提出を求められたりするケースが多々あります。従わないと、入国が許可されない場合もあります。通常、珍しい予防接種を要求されることはありません。しかし、「はしか」や「ポリオと3種混合」などと呼ばれるわが国でも馴染み深い予防接種も、みなさんが実際に受けたのは10年以上前のはずです。それらを確認するのは母子手帳しかありませんので、手帳そのものを紛失してしまった場合には、改めて予防接種を受けるようにしてください。なお、予防接種料は予防接種の種類、あるいは病院によっても異なりますので事前に調べてから病院などに行くようにしてください。

## 持ち物

大学が必要と判断するもののみ記載をします。各自でよく考えて、必要なものと、そうでないものを確認しておきましょう。各航空会社の重量制限を守って快適な移動ができるように心がけましょう。(次頁の持ち物リストを参照)

# 持ち物リスト

| 準備するもの             | 留 学 | 交換留学・<br>全学セメスター留学 | 海外短期研修 | メモ  |
|--------------------|-----|--------------------|--------|---|
| パスポート              | ◎   | ◎                  | ◎      | 必ず有効期限を確認しておくこと   |
| 航空券（またはeチケット）      | ◎   | ◎                  | ◎      | 出発日時、ルート、航空会社、便名、空港名を事前に確認  |
| 海外旅行保険証            | ◎   | ◎                  | ◎      | 飛行機では機内持ち込み手荷物にすること   |
| 海外安全サポートの手引き       | ◎   | ◎                  | ◎      | 緊急時の電話番号を確認するため、常時携帯  |
| 現金（日本円・外貨）         | ◎   | ◎                  | ◎      | 万が一の時に備えて分散収納<br>スーツケースには絶対入れないこと（保障の対象外）                             |
| クレジットカード           | ◎   | ◎                  | ◎      | 現金が足りない場合に持っていると便利<br>身分証明にもなる  |
| スーツケース             | ◎   | ◎                  | ◎      | アメリカは「TSAロック【注1】」対応のスーツケース<br>以外鍵をしないこと。その他地域は必ず施錠。<br>移動時に貴重品は入れないこと |
| 文房具                | ◎   | ◎                  | ◎      | 機内でもボールペンは必要  |
| 電子辞書（辞書）           | ◎   | ◎                  | ◎      | 勉強には必ず必要  |
| 常備薬・救急セット          | ◎   | ◎                  | ◎      | 万が一の時に備えて使い慣れた薬を必ず持参  |
| 洗面用具               | ◎   | ◎                  | ◎      | 現地購入可   |
| 衣類（下着・部屋着）         | ◎   | ◎                  | ◎      | 温度調節できるように準備  |
| ノートパソコン・ケーブル       | ○   | ○                  | ○      | 環境により使用状況が異なる。長期留学にはあると便利   |
| 海外用携帯電話・<br>海外用充電器 | ○   | ○                  | ○      | 海外での通話やネット使用は高額になることが<br>多いので注意が必要<br>長期滞在の場合は現地購入のほうが安いことも           |
| カメラ・カメラ用バッテリー      | ○   | ○                  | ○      |   |
| 目覚まし時計             | ○   | ○                  | ○      | 携帯電話で代用可  |
| 電卓                 | ○   | ○                  | ○      | 携帯電話で代用可<br>通貨等の換算に便利   |
| 雨具                 | ○   | ○                  | ○      | 折り畳み傘・合羽など 現地購入可  |
| スーツケースベルト          |     |                    |        | 運搬中にスーツケースが開いてしまった時に備えて<br>荷物を探すときの目印にもなる                             |
| スーツケース用ネームタグ       |     |                    |        | 荷物を紛失した場合や、自分の荷物の確認<br>名前等は英語で記入                                      |
| 英語教材               |     |                    |        | TOEICの問題集や文法書など。自由時間に勉強   |
| プラグセット             |     |                    |        | 渡航先のコンセントプラグの形状を事前に確認   |
| 海外用ドライヤー           |     |                    |        | ホテル滞在以外には必要   |
| タオル・バスタオル          |     |                    |        | ホテル滞在以外には必要   |
| 洗濯セット              |     |                    |        | ホームステイ以外には必要（現地購入可）<br>洗濯用洗剤・洗濯ローブ・洗濯ばさみ等必要に応じて                       |
| ハンカチ・ポケットティッシュ     |     |                    |        | 現地購入可   |
| 携帯用折り畳みスリッパ        |     |                    |        | 飛行機の移動時や自分の部屋では便利   |
| ソーイングセット           |     |                    |        | ボタン直しの時などに便利（現地購入可）   |

◎：大学が絶対必要だと考えるもの、○：研修先の条件によっては必要、それ以外は渡航先と期間により各自選択

## 【注1】 TSAロック

TSAロックはアメリカ運輸保安局 TSA (Transportation Security Administration) によって認可・容認されたロックで、セキュリティチェックが最も厳しいアメリカであっても、カギをかけたまま航空会社に預けることができるロックです。

## Ⅱ 留学と単位認定について

### 留学中(～帰国)の留意事項

#### ■ 大学への報告(交換留学および全学セメスター留学の場合)

交換留学および全学セメスター留学に参加するみなさんは、留学中も定期的な報告を行う義務があります。週1回の週報と、月1回の月次報告の2種類いずれも行って下さい。

週報はその1週間に授業などで遭遇した出来事等についてで、自分が感じたことや日本との違いについて、書いてもらうものです。また月次報告は、その月のまとめとして、あなたが留学生活で考えたこと、感じたことを書いてもらうものです。単なる日記のような軽い内容ではなく、帰国した際にこれらを読み返せば、自分の留学成果が誰にでも理解できるような内容で書いてください。どちらを怠っても、大学側から警告を受けることになります。報告書の提出期限は、必ず守るようにしてください。

#### ■ 帰国の準備及び帰国後の手続き

帰国が近づくと、やるべきことは想像以上にたくさんあります。荷物の取りまとめ、配送、大学の手続き、お世話になった方へのお礼など、数え上げたらきりがありません。絶対に忘れてはならないのが、帰国後の本学での単位認定に必要な資料を整理しておくことです。万が一、こうした書類を持たずに帰国した場合、留学先大学でどれだけ優秀な成績を残しても、みなさんが所属する学部教授会で単位認定をすることができません。絶対に単位認定に必要な書類は持ち帰ることを忘れないでください。留学終了後、速やかに(帰国後、2～3日後)国際センター・学生支援室・教務課・キャリアセンターを訪れるようにしてください。同時にゼミの指導教員にも帰国の報告をしておきましょう。

#### ■ 悩みごとがあるとき

慣れない異国の地に行く訳ですから、トラブルにも遭遇することかと思えます。基本的には留学は自己責任ですから、まずはトラブルに向き合い、解決の糸口を見つめる努力をしてほしいと思います。トラブルを乗り越えることによって人間的に大きく成長することができるからです。そうはいつても、精神的に傷ついたり、思い悩むこともあります。そうしたときには、ひとりで考え込まずに現地留学先の国際センターか、本学国際センターに相談をしてください。

### 単位認定の手順

交換留学にせよ全学セメスター留学にせよ、1学期以上本学を離れるわけですから、4年間で卒業するためには、留学先大学で修得した外国の大学の単位を本学の単位に読み替えることが必要になります。ここでは、単位認定に関して注意すべきことを記載します。

#### ■ 留学前の留意点(交換留学の場合)

欧米の多くの大学では、学期間ごとの履修計画表(シラバス)を各大学のホームページから見るすることができます。過去の留学生の留学先大学の履修パターンをみると、大きくわけて2つの傾向があります。1つは、現在本学で専攻している学部・学科の科目を継続して履修するパターン。例えば、経済学部の学生が留学先大学で経済やビジネスの科目を専攻するというものです。もう1つは、まったく逆の発想で、例えば本学で国際英語学部にも所属している学生が、留学先大学ではこれまで学んだことのない、経営学やマーケティング、ホスピタリティなどを学ぶというパターンです。いずれにしても、帰国後の単位の読み替えを決定するのは各学部教授会ですから、シラバス閲覧後ある程度履修希望科目が決まった段階で、それぞれの学部のカリキュラム委員・教務委員・ゼミ担当教員・教務課と連絡を密にしておく必要があります。

#### ■ 履修計画作成段階では重複履修に注意

留学先大学で履修計画を立てる際、すでに本学で修得した科目への、単位の読み替えは不可能です。まずはCUBICSの「修得科目一覧参照」で修得科目を確認し、留学先大学での履修計画を立ててください。



## 「履修登録」について

交換留学帰国後の履修登録については、学部・学科によって条件が異なります。履修登録を認めていない、または科目を制限している学部・学科がありますので、教務課にて確認してください。

履修登録が許可される場合は、帰国後速やかに教務課窓口にて「履修登録追加登録カード」を受け取り、教員のサインをもらった上で教務課に提出をしてください。

交換留学（1セメスター）および全学セメスター留学から帰国した場合は、本学秋学期中に帰国するので、次の春学期の履修登録については、通常通りの方法となります。



## 「単位認定申請」について

交換留学・全学セメスター留学を修了した学生は、留学先で修得した科目を、本学の科目と読み替える「単位認定申請」を行います。学部学科・学年によって読替可能科目や単位数が異なるため、出発前に必ず各学部の教務委員またはゼミ担当教員に相談してください。

単位認定申請には「修得単位認定願」「単位換算計算式」の作成に加え、その他添付資料の提出が必要になります。（下記参照）

単位換算のためには、1回あたりの授業時間・1週間あたりの授業回数・週数を証明する書類が不可欠になります。これらはシラバス・アカデミックカレンダーに記載されていることが多いのですが、もし記載がない場合は、留学先大学の科目担当者に授業時間・授業回数の証明書を作成してもらってください。必ず留学中に入手してください。

その他にも書類作成上細かなルールがあります。教務課にて説明会を実施（もしくは手引書を配付）しますので、ALBOのお知らせに注意してください。



## 修得単位認定願に添付する書類

- 現地大学の成績表** …………… 公式なものが望ましいですが、発行に時間がかかり、申請期間に間に合わない場合は留学先大学のホームページにアクセスし、ダウンロードする方法で入手しても構いません。ただし、後日公式なものを教務課に提出してください。
- シラバス** …………… 各授業科目の講義目的・内容、授業時間が記載された印刷物、あるいはホームページに掲載されている部分をプリントアウトしたものです。
- 評価基準説明書** …………… 海外大学ではC+やA-など、日本とは異なる成績表記方法があるため、評価基準を説明した書類が必要となります。通常は成績表の裏面に記載されていますが、記載されていない場合は別途説明書が必要となります。
- アカデミックカレンダー** …………… 履修した科目ごとに、その講義期間が書かれた書類です。  
基本回数は、日本でも海外でも1学期間で15回程度ですが、いずれにしても最初の秋学期の授業開始日が●月○日で、終了日が●月○日ということがわかる書類が必要です。
- その他** …………… 教科書・講義ノートなど授業に関連したことを証明する書類、印刷物、自分のノートなど。

## Ⅲ 海外危機管理

### 安全な留学生活を送るために

#### ■ 海外留学とリスク

海外渡航者の増加につれ、さまざまな犯罪、テロや暴動、あるいは津波・大地震などの自然災害に日本人が巻き込まれるケースが増えています。海外留学についても、長期にわたって海外で生活するわけですから、常にさまざまなリスクと隣り合わせであることを認識しておく必要があります。

まず、**海外は日本とは違う**ということです。わが国も、最近ではさまざまな凶悪事件が起り、安全ではなくなったといわれています。しかし、それでも日本ほど安全な国は世界中どこにもないということを認識しておいてください。留学中には、日本にいる時とは、異なる危機管理意識を持つことが求められます。

海外留学でのリスクについて考えてみましょう。もっとも、可能性が高いのは、病気や怪我など健康を損なうリスクです。発熱や日常的な怪我などの比較的軽いものから、交通事故で重傷を負うなど、場合によっては帰国しなければならないような重いものまであります。次は、犯罪に合うリスクです。すりや置き引きなど盗難だけでなく、傷害事件や最悪のケースでは殺人事件・拉致に巻き込まれる事例も増えています。このほか、地震・台風・津波などの自然災害や、テロ・クーデター、暴動に遭遇するリスクも考慮しておく必要があります。

これらのリスクの中には、病気や怪我など日本にいても起こりうるリスクもありますが、犯罪にあうリスクや、テロ・クーデター・暴動などに遭遇するリスクは日本よりはるかに高い確率で起こると考えて、備えておくことが重要になります。また、病気や怪我などのリスクについても、日本とは医療事情が異なることを念頭においておく必要があります。言葉の違いもあり、日本ほどスムーズに治療を受けられるとは限らないからです。また、費用面でも日本と比較にならないほど高額な治療費の請求を受けることがあります。

#### ■ リスクを最小にするために → 「自分の身は自分で守る」

これまで述べてきたように、海外留学にはさまざまなリスクがあります。ただ、皆さんの心がけ次第でリスクを小さくすることは可能です。まず、大事なことは、「自分の身は自分で守る」こと、自己責任の意識を常に持つことです。そのうえで、次のことを心がけるようにしてください。

|                              |  |
|------------------------------|--|
| ① 節制を心がけ、健康的な生活を送る           | 説明するまでもありません。留学生活はまず健康が第一です。常に節度ある生活を心がけてください(暴飲・暴食をつつしみ、睡眠をよくとること)。   |
| ② 危険な場所には近づかない・危険な時間帯の外出は避ける | 海外の都市、特に大都市には危険とされる場所がたくさんあります。危険な場所には近づかないことが肝心です。また、安全とされている場所でも、時間帯によっては危険な場所に変わることがあります。危険な時間帯の外出、特に単独行動は極力避けたほうがいいでしょう。 |
| ③ 常に緊張感を持つ                   | ホテルの中など日本では安全と考えられている場所でも、油断をすると盗難、置き引き、強盗などの犯罪にあうことがあります。常に緊張感を持って、警戒を怠らないことが重要です。  |
| ④ 目立った服装、振る舞いをしない            | 「郷に入っては郷に従え」です。周囲の雰囲気に合わせて目立った格好をしないことが重要です。派手な格好、ブランド品を身につけるなどの目立つ格好は極力避けてください(欧米では若い女性が日常的にブランド品を身につけることはあまりありません)。        |
| ⑤ 犯罪にあっても抵抗しない               | 注意していても犯罪に巻き込まれることもあります。犯人の多くが凶器を所持しています。万が一犯罪に遭ってしまったら、生命の安全を第一に、できるだけ抵抗しない態度を示し、後に警察に被害届けを出すために犯行状況を記憶することが大切です。           |
| ⑥ 見知らぬ人を安易に信用しない             | 旅先で知り合った人の表面的な優しさに対する気の緩みから、詐欺事件にあうケースが多発しています。海外での犯罪手口は多様で巧妙です。現地の人と触れ合うことは海外留学の醍醐味ですが、少しでも怪しいと感じたら、ためらわず「ノー」と断ることも大切です。    |
| ⑦ 多額の現金や貴重品を持ち歩かない           | 海外では、日本人は多額の現金や貴重品を持っているという先入観を持たれているため、ターゲットにされるケースが多々あります。必要以上の現金や貴重品を持ち歩かない工夫が大切です。                                       |

|                  |   |
|------------------|---|
| ⑧ 情報収集に努める       | 外務省の「海外安全ホームページ( <a href="http://www.anzen.mofa.go.jp/">http://www.anzen.mofa.go.jp/</a> )」や国際協力機構(JICA)の「国別生活情報( <a href="http://www.jica.go.jp/seikatsu/index.html">http://www.jica.go.jp/seikatsu/index.html</a> )」などで、こまめに渡航先の国の安全情報をチェックしておくことが重要です。 |
| ⑨ 車(二輪車含む)の運転は厳禁 | 自動車や二輪車の運転は、被害者になる可能性だけでなく加害者になる可能性もあります。留学中に国際免許等で車や二輪車を運転することは厳禁です。   |

## 「海外旅行保険」と「海外危機管理トータルサポートサービス」について

これまで説明したように心がけ次第で海外留学中のリスクを最小にすることは可能です。しかし、それでも不幸にして何らかのアクシデントが起きてしまうことはありえます。いくら注意をしても、絶対に安全ということはありません。不幸にして何かアクシデントが起きてしまった場合に備えておくことは、海外留学中の危機管理として非常に大切なことです。ここでは、万一何らかのアクシデントが起きてしまった場合の備えとして、**海外旅行保険**と**海外危機管理トータルサポートサービス**について説明します。

### ■ 海外旅行保険について

まず、留学に備えて留学前に最低限済ませておく必要があるのは、海外旅行保険に加入することです。海外旅行保険とは、加入すると留学中に病気や怪我をしたときに、治療代や万一死亡した場合の補償金が支払われたり、盗難などの犯罪にあったときに被害額の一部が支払われる、というものです(補償の金額、内容は保険によって異なります)。海外では医療費が高額になる国も多く、まさかのときの備えとして、海外旅行保険は大きな力となります。本学では、海外短期研修も含め大学主催のプログラムで海外に留学する場合には、死亡した場合の補償金(傷害死亡)、及び後遺症が残った場合の補償金(後遺障害)が、3,000万円以上で、病気や怪我をした場合にも十分対応可能な補償内容の充実した大学指定の海外旅行保険に加入することを義務付けています。必ず、留学に出発する前に加入するようにしてください。加入する海外旅行保険については、本学では**東京海上日動の海外旅行保険**に限定しています。これは、東京海上日動の海外旅行保険への加入が、後で説明する「**海外危機管理トータルサポートサービス**」を受けるための条件になっているためです。他の損害保険会社の海外旅行保険では、海外危機管理トータルサポートサービスが使えなくなるため、大学主催の海外留学・海外研修プログラムでは、本学が指定した東京海上日動の海外旅行保険しか認めていません。

海外旅行保険に加入する必要があるのですか？

はい、絶対に加入する必要があります。

理由は、海外旅行保険に入らないと万一留学中に事件や事故が起こったときにあなたの身を守れないことになるからです。まず、留学中に何か危険なことが起こったときにあなたを救援してくれる「海外危機管理トータルサポートサービス」を受けるためには、東京海上日動の海外旅行保険に加入していることが条件になっています。また、海外旅行保険は留学中にあなたが病気・怪我をした場合に、医療費をあなたに代わって支払ってくれます。海外の医療費は非常に高額になることも多く、海外旅行保険に入っていないと十分な治療を受けられない可能性があるのです。また、寮やホテルなどの施設を誤って壊すなどして巨額の損害賠償請求を受けた場合にも、海外旅行保険に入っていれば保険会社があなたに代わって損害賠償をしてくれます。海外旅行保険は、まさに「転ばぬ先の杖」です。当然お金はかかりますが、何かあってからでは手遅れです。安心を買うと考えて必ず出発前に加入するようにしてください。手続きは簡単です。留学前に保険の代理店から配布される申込書に記入して保険金を振り込めば、海外旅行保険に加入できます。

## ■ 海外危機管理トータルサポートサービスについて

何らかの事故や事件が起こってしまった場合の備えとして、2008年度より本学が導入したのが、東京海上日動リスクコンサルティング社の「**海外危機管理トータルサポートサービス（以下サポートサービスと略称）**」です。このサポートサービスは、海外旅行保険では不十分な点を補い、皆さんがより安全で安心できる留学生活を送れるようにしようという新しいサービスで、この地域の大学としては本学が導入第一号です。具体的には、海外で自然災害や政情不安など、留学生の安全が脅かされるような事態が発生した場合に救援活動をしてくれたり、病気や怪我などトラブルが生じた場合に、24時間対応のサポートデスクが相談を受け付け、病院の手配などのサービスをしてくれるというものです。サポートデスクの電話番号は、留学するときに配布する「海外緊急連絡カード」に掲載されていますので、留学中はこれを肌身離さず持つようにしてください。

それでは、サポートサービスをどのように活用するか、事例に沿って試みていくことにしましょう。



### 海外研修中に重大な事故が起こり、重傷を負ったり、最悪の場合には死亡に至った場合 (たとえば、研修中に一行の乗ったバスが谷に転落。多数が重傷を負った場合)

この場合、まず連絡できる人が東京海上日動のサポートデスクに連絡します。このサポートデスクは24時間対応です。サポートデスクは、連絡を受けて病院の手配をしてくれます。負傷の状況次第では、帰国して治療したほうが良い場合もあります。その場合には、日本から医師や看護師を派遣し、帰国便を確保して医師・看護師同行で帰国させます。なお、この間の事故の情報についてはサポートデスクから逐一大学側に伝えられますので、大学側としても、職員の派遣など救援の方針を立てやすくなります。



### 海外研修中にクーデターや暴動、地震などの自然災害が起こって、安全な帰国がままならない場合

サポートデスクに連絡をすると、連絡を受けたサポートデスクは、たとえばガードマンつきの特別な車両を用意するなど、本学の学生が安全に国外まで避難できるように手配してくれます。



### 留学中に病気や怪我をした場合

海外滞在中によくある事例として、生命に関わるほどではないけれども、病気で発熱したり、怪我をすることです。この場合も、まずサポートデスクに連絡をしてください。サポートデスクがその国の病院を手配して、東京海上日動の提携病院がある場合は現金を持っていなくても治療を受けられるようにしてくれます。ただし、歯の治療については海外旅行保険の対象外となりますので渡航前にきちんと治療しておくことをおすすめします。



### 留学中にクレジットカードやパスポートを紛失した場合

こうした場合は、サポートデスクに相談すれば、カード会社への届出の仕方、緊急連絡先の電話番号、パスポートの再発行手続の仕方、大使館・領事館の電話番号等をアドバイスしてくれます。



### ホテルで浴室の水を溢れさせるなど、損害賠償を請求された場合

これまでは、あなたが被害者になるケースを説明してきましたが、場合によっては損害賠償を請求される側になってしまうこともあります。この場合も、まずサポートデスクに連絡してください。サポートデスクから、保険会社に連絡が行き、損害賠償の手続きを進めてくれます。損害賠償の請求額も保険の範囲内であれば、保険会社があなたに代わって支払ってくれます（もちろん、賠償責任をカバーする海外旅行保険に加入している場合だけです）。

以上のように、何か起こったらまずは **サポートデスクに連絡** と考えてください。これ以外のケースでも、何らかのトラブルが生じた場合には、遠慮せずにサポートデスクに電話してください。役に立つアドバイスが得られるはずです。



# 海外留学中の危機管理について（留学中に何か起こったら）

